

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-330808

(P2002-330808A)

(43) 公開日 平成14年11月19日 (2002. 11. 19)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード* (参考)
A 4 5 B 9/00		A 4 5 B 9/00	A
7/00		7/00	Z
17/00		17/00	Z

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 9 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2001-140639(P2001-140639)

(22) 出願日 平成13年5月10日 (2001. 5. 10)

(71) 出願人 000103116

サンコーテリア株式会社

和歌山県海南市大野中715

(72) 発明者 角谷 勝義

和歌山県海南市阪井1634

(74) 代理人 100078868

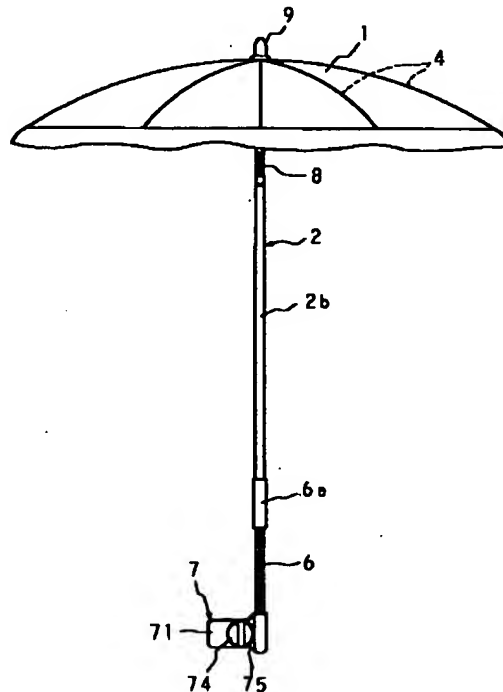
弁理士 河野 登夫

(54) 【発明の名称】 傘

(57) 【要約】

【課題】 傘の全体を傾けることなく、日差しの方
向に応じて張り布の位置を簡易に変えることが
できるようにする。

【解決手段】 張り布1が保持された軸柄2と、
該軸柄2に摺動を可能に挿嵌され、前記張り
布1を開閉操作する操作環3とを備え、前記
軸柄2における前記操作環3の張り布開位置
よりも下側にフレキシブル部8を設けたこと
により、該フレキシブル部8を曲げることに
よって張り布1の位置を変えることができる
ようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 張り布が保持された軸柄に前記張り布を開閉操作する操作環が張り布開位置及び張り布閉位置の間で摺動可能に挿嵌されている傘において、前記軸柄は前記操作環の張り布開位置よりも下側にフレキシブル部を有していることを特徴とする傘。

【請求項2】 前記フレキシブル部はフレキシブルシャフトからなり、前記軸柄は上下に分割されており、該軸柄の分割端の間に前記フレキシブルシャフトが結合されている請求項1記載の傘。

【請求項3】 前記軸柄の下端は被取付体に取付けられる取付具を有している請求項1又は2記載の傘。

【請求項4】 前記フレキシブル部は前記張り布開位置の近傍位置に配置されており、前記軸柄は前記取付具の近傍位置にフレキシブルシャフトを有している請求項3記載の傘。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は軸柄を中心として張り布が開閉される傘に関する。

【0002】

【従来の技術】雨傘、日傘等の傘は、軸柄がパイプを用いてなる1本であるか、又は、上下に分割された2本のパイプが摺動可能に嵌合された構成となっており、軸柄の捻みは禁止されている。従って、経時により日差しの方が変化する場合で使用する日傘にあつては、日差しの方に応じて傘の全体を傾ける必要がある。

【0003】ところで、乳母車には張り布を有する比較的大形のタイプと、張り布等の日除け部がなく、折畳みが可能で携帯に便利な比較的小形のタイプとがあり、この小形タイプの乳母車にあつては、乳幼児を直射日光から守ることができないため、この小形タイプの乳母車に日傘を取付けることが考えられる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところが、傘は軸柄の捻みが禁止されているため、日差しの方に応じて傘の全体を傾けた場合には手首が振じられた状態で傘を把持することになり、非振じ時に比べて手首が疲れ易くなる。また、乳母車に取付けられた場合は、日差しの方に応じて傘の位置を変えることができないと言う不都合がある。

【0005】本発明は斯かる事情に鑑みてなされたものであり、軸柄における操作環の張り布開位置よりも下側にフレキシブル部を設けることにより、張り布の軸柄に対する位置を変えることができる傘を提供することを目的とする。

【0006】また、フレキシブルシャフトからなるフレキシブル部を用いるとともに、軸柄を上下に分割し、該軸柄の分割端の間に前記フレキシブルシャフトを結合した構成とすることにより、フレキシブルシャフトを曲げ

ることによって張り布の軸柄に対する位置を自由に変えることができるとともに、フレキシブル部を簡易に構成することができる傘を提供することを目的とする。

【0007】また、軸柄の下端に被取付体に取付けられる取付具を設けることにより、乳母車に傘を取付ける場合においても簡易に取付け及び取外しすることができる傘を提供することを目的とする。

【0008】また、張り布を開閉操作する操作環の張り布開位置の近傍位置にフレキシブル部を配置し、軸柄の取付具の近傍位置にフレキシブルシャフトを配置することにより、取付具に対する軸柄の角度と、張り布の軸柄に対する位置とを変えることができる傘を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】第1発明に係る傘は、張り布が保持された軸柄に前記張り布を開閉操作する操作環が張り布開位置及び張り布閉位置の間で摺動可能に挿嵌されている傘において、前記軸柄は前記操作環の張り布開位置よりも下側にフレキシブル部を有していることを特徴とする。

【0010】第1発明にあつては、フレキシブル部によって張り布の軸柄に対する位置を変えることができるため、傘の全体を傾けることなく、日差しの方に応じて張り布の位置を簡易に変えることができる。従って、日差しの方に応じて張り布の位置を変えた場合においても手首が振じられない状態で傘を把持することが可能であり、手首の疲れを低減できる。また、軸柄の下端が乳母車に取付けられた場合、乳母車への取付状態を変えることなく、フレキシブル部によって日差しの方に応じて張り布の位置を簡易に変えることができる。

【0011】第2発明に係る傘は、前記フレキシブル部はフレキシブルシャフトからなり、前記軸柄は上下に分割されており、該軸柄の分割端の間に前記フレキシブルシャフトが結合されていることを特徴とする。

【0012】第2発明にあつては、フレキシブルシャフトを曲げることによって張り布の軸柄に対する位置を簡易に変えることができ、また、上下に分割された軸柄の分割端間にフレキシブルシャフトを結合することによりフレキシブル部を簡易に構成することができる。

【0013】第3発明に係る傘は、前記軸柄の下端は被取付体に取付けられる取付具を有していることを特徴とする。

【0014】第3発明にあつては、取付具を操作することによって軸柄を被取付体に取付けることができるため、乳母車に傘を取付ける場合においても、乳母車のハンドル部に簡易に取付け及び取外しすることができる。

【0015】第4発明に係る傘は、前記フレキシブル部は前記張り布開位置の近傍位置に配置されており、前記軸柄は前記取付具の近傍位置にフレキシブルシャフトを有していることを特徴とする。

【0016】第4発明にあっては、取付具の近傍位置に配置されたフレキシブルシャフトによって取付具に対する軸柄の角度を変えることができ、さらに、張り布開位置の近傍位置に配置されたフレキシブル部によって張り布の軸柄に対する位置を変えることができるため、乳母車に傘を取付ける場合においても、乳母車の停止状況に応じて乳母車に対する張り布の位置を最適に調整することが可能である。

【0017】

【発明の実施の形態】以下本発明をその実施の形態を示す図面に基づき具体的に説明する。図1は本発明に係る傘の正面図、図2は取付具を軸柄から取外した状態を示す正面図、図3の(a)は要部の拡大縦断面図、図3の(b)は要部の拡大平面図、図4は軸柄の上側部分の側面図、図5は取付具の拡大断面図である。また、図6乃至図11は部分意匠を示すもので、図6は正面図、図7は背面図、図8は左側面図、図9は右側面図、図10は平面図、図11は底面図、図12及び図13は部分意匠の拡大図であり、図12の(a)は正面図、図12の(b)は背面図、図13の(a)は左側面図、図13の(b)は右側面図である。

【0018】この傘は、平面視でほぼ円形の張り布1と、該張り布1の中心部が保持された軸柄2と、該軸柄2に摺動可能に挿嵌され、張り布開位置及び張り布閉位置の間で前記張り布1を開閉操作する操作環3と、該操作環3及び前記張り布1に取付けられた複数の傘骨4と、前記操作環3を前記張り布開位置で係止/解除する係止部材5と、前記軸柄2の下端に着脱可能に結合されるフレキシブルシャフト6を有し、被取付体に取付けられる取付具7とを備える。

【0019】軸柄2は上下に分割された2つの金属パイプ2a、2bからなり、該軸柄2の分割端の間にフレキシブルシャフト8aからなるフレキシブル部8が設けられている。また、軸柄2の上端には前記張り布1の中心部を固定するためのキャップ9が螺着されている。また、軸柄2には前記張り布開位置の上側に前記操作環3の摺動を制限するストッパ22が突設されている。

【0020】フレキシブル部8はその両端が前記金属パイプ2a、2bの一端に内嵌固定されたフレキシブルシャフト8aの周りに、外周面に螺旋状の凸条が突設され、可撓性を有する合成樹脂製の被服筒8bが套嵌された構成となっており、この被服筒8bが前記金属パイプとほぼ等しい太さに形成されている。フレキシブルシャフト8aの両端部は前記金属パイプ2a、2bの2箇所が環状にかしめられることにより固定されている。

【0021】このように形成されたフレキシブル部8は前記操作環3の張り布開位置よりも下側で、張り布開位置の近傍位置に配置されており、フレキシブル部8の外側を前記操作環3が摺動するようにしてある。尚、図3(a)の底面図は図3(b)と同じに現れる。

【0022】係止部材5は前記軸柄に穿設された係止孔21と係合することにより操作環3の摺動を禁止するもので、前記操作環3に摺動可能に枢支されており、付勢ばね10によって前記係止孔21の方向へ付勢されている。

【0023】取付具7は長手方向一端がヒンジによって開閉可能に連結され、他端に摺持凹部71a、72aを有する矩形の2つの取付体71、72と、前記ヒンジ及び摺持凹部71a、72aの間に穿設された貫通孔に挿通されたねじ軸73と、該ねじ軸73の一端に螺着されたナット74と、該ナット74及び一方の取付体71の間に回転自在に介在され、フレキシブルシャフト6が結合された回動部材75と、前記取付体71、72の間に介在され、該取付体71、72を離間方向へ付勢するコイルバネ76と、前記取付体71、72の内側に保持されたゴム性の緩衝板77、77とを備えており、前記ナット74を回すことにより、ヒンジを支点として取付体71、72を摺動させ、摺持凹部71a、72aの間隔を調節して被取付体を摺持することができるように構成されている。

【0024】回動部材75及び取付体71の対接面には凹凸の菊座78が設けられており、該菊座78によって回動部材75の回動位置を確実に維持することができるようにしてある。

【0025】フレキシブルシャフト6は一端が前記回動部材75に固定されており、他端に嵌合筒6aを有し、該嵌合筒6aに前記軸柄2の下端が抜き出しを可能に嵌合されている。

【0026】図14は傘の使用状態を示す斜視図である。以上の如く構成された傘は、例えば乳母車のハンドル(被取付体)に装着される。この傘の装着は、取付具7のナット74を弛緩させた状態で取付体71、72の摺持凹部71a、72aを前記ハンドルに嵌合し、前記ナット74を緊締することにより取付具7をハンドルに固定することができる。そして、操作環3を張り布開位置へ摺動させることにより、該操作環3が係止部材5に係止され、張り布1を図1のように開くことができる。

【0027】このように乳母車に装着された傘は、前記ナット74を弛緩して前記回動部材75を回すことにより、軸柄2の取付具7及び乳母車に対する角度を自由に調節することができ、また、フレキシブルシャフト6を曲げたり、振じたりすることによって軸柄2の取付具7及び乳母車に対する位置を自由に変えることができ、張り布1の位置を日差しの方角に応じて簡易に変えることができる。さらに、軸柄2の上側には前記フレキシブルシャフト6と別個のフレキシブル部8が設けられており、該フレキシブル部8を曲げることにより張り布1の位置をさらに変えることができるため、経時により日差しの方角が変化する状況下で、張り布1を最適の位置に配置させることができる。この場合、張り布1を開いた

状態で軸柄2の上端に螺着されたキャップ9を摘んで前記フレキシブル部8を曲げることができるため、張り布1の位置調節を簡易に行うことができる。

【0028】また、以上のように乳母車に装着された傘は、取付具7が前記ハンドルに取付けられた状態でフレキシブルシャフト6を略U字形に曲げることが可能であるため、乳母車が折り畳みされるとき、傘を取外すことなく前記フレキシブルシャフト6を略U字形に曲げることにより、折り畳みされた傘を乳母車の側部に沿わせることができる。

【0029】尚、以上説明した実施の形態では、軸柄2の下端に乳母車等の被取付体に取付けられる取付具7が設けられた傘について説明したが、その他、前記取付具7に代えて片手で把持することが可能な把持具を設けた構成としてもよい。この場合、フレキシブル部8によって張り布1の軸柄2に対する位置を変えることができ、傘の全体を傾けることなく、日差しの方角に応じて張り布1の位置を簡易に変えることができるため、日差しの方角に応じて張り布1の位置を変えた場合においても手首が振じられない状態で傘を把持することが可能であり、手首の疲れを低減できる。

【0030】また、前記取付具7が設けられた傘にあっては、前記フレキシブルシャフト6をなくした構成としてもよい。

【0031】

【発明の効果】第1発明によれば、フレキシブル部によって張り布の軸柄に対する位置を変えることができ、傘の全体を傾けることなく、日差しの方角に応じて張り布の位置を簡易に変えることができるため、日差しの方角に応じて張り布の位置を変えた場合においても手首が振じられない状態で傘を把持することが可能であり、手首の疲れを低減でき、また、軸柄の下端が乳母車等の被取付体に取付けられた場合、被取付体への取付状態を変えることなく、フレキシブル部によって日差しの方角に応じて張り布の位置を簡易に変えることができる。

【0032】第2発明によれば、フレキシブルシャフトを曲げることによって張り布の軸柄に対する位置を簡易に変えることができ、また、上下に分割された軸柄の分割端間にフレキシブルシャフトを結合することによりフレキシブル部を簡易に構成することができ、フレキシブル部を設けたことによるコストの上昇を小さくすることができる。

【0033】第3発明によれば、取付具を操作することによって軸柄を被取付体に取付けることができるため、

乳母車に傘を取付ける場合においても、乳母車のハンドル部に簡易に取付け及び取外しすることができる。

【0034】第4発明によれば、取付具の近傍位置に配置されたフレキシブルシャフトによって取付具に対する軸柄の角度を変えることができ、さらに、張り布開位置の近傍位置に配置されたフレキシブル部によって張り布の軸柄に対する位置を変えることができるため、乳母車に傘を取付ける場合においても、乳母車の停止状況に応じて乳母車に対する張り布の位置を最適に調整することが可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る傘の正面図である。

【図2】本発明に係る傘の取付具を軸柄から取外した状態を示す正面図である。

【図3】本発明に係る傘の要部を示すもので、(a)は拡大縦断面図、(b)は拡大平面図である。

【図4】本発明に係る傘の軸柄の上側部分の側面図である。

【図5】本発明に係る傘の取付具の拡大断面図である。

【図6】本発明に係る傘の部分意匠を示す正面図である。

【図7】本発明に係る傘の部分意匠を示す背面図である。

【図8】本発明に係る傘の部分意匠を示す左側面図である。

【図9】本発明に係る傘の部分意匠を示す右側面図である。

【図10】本発明に係る傘の部分意匠を示す平面図である。

【図11】本発明に係る傘の部分意匠を示す底面図である。

【図12】本発明に係る傘の部分意匠を示す拡大図であり、(a)は正面図、(b)は背面図である。

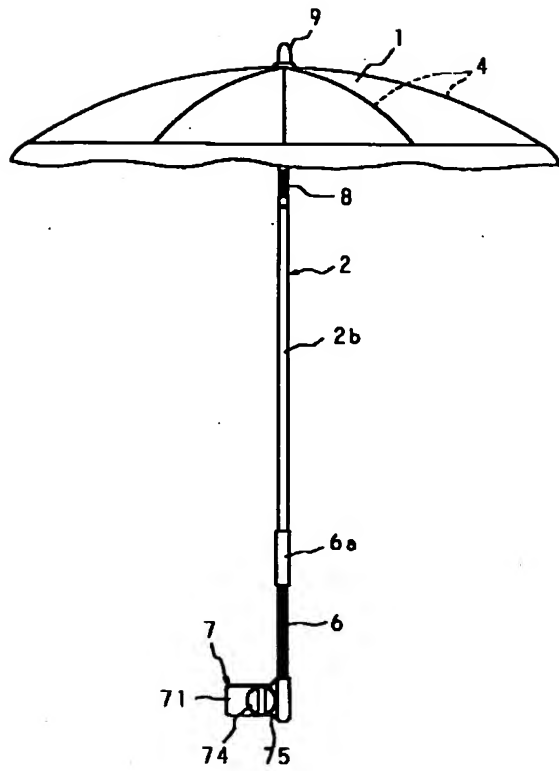
【図13】本発明に係る傘の部分意匠を示す拡大図であり、(a)は左側面図、(b)は右側面図である。

【図14】本発明に係る傘の使用状態を示す斜視図である。

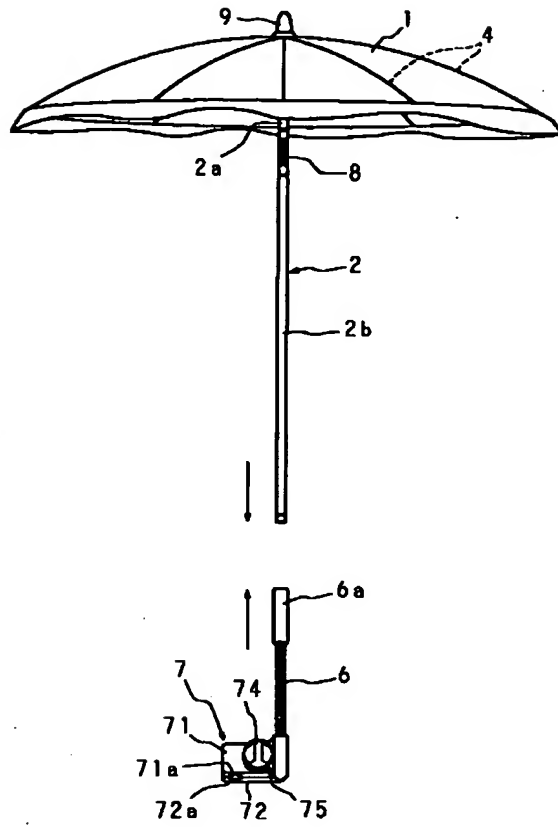
【符号の説明】

- 1 張り布
- 2 軸柄
- 3 操作環
- 6 フレキシブルシャフト
- 7 取付具
- 8 フレキシブル部

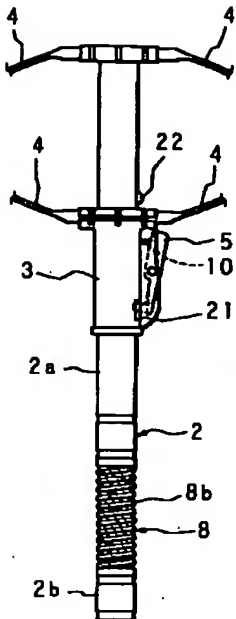
【図1】



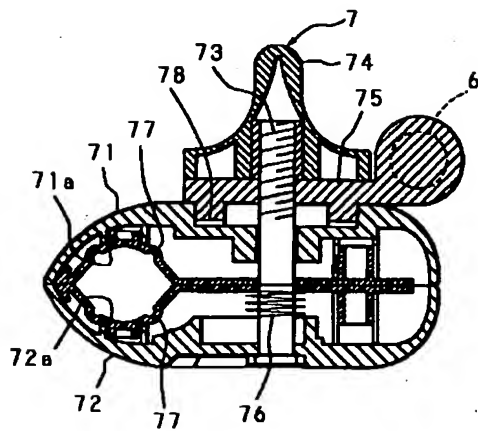
【図2】



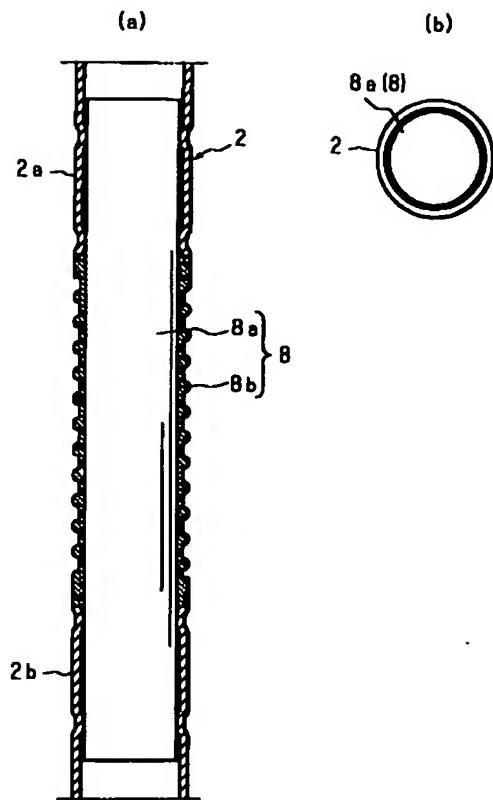
【図4】



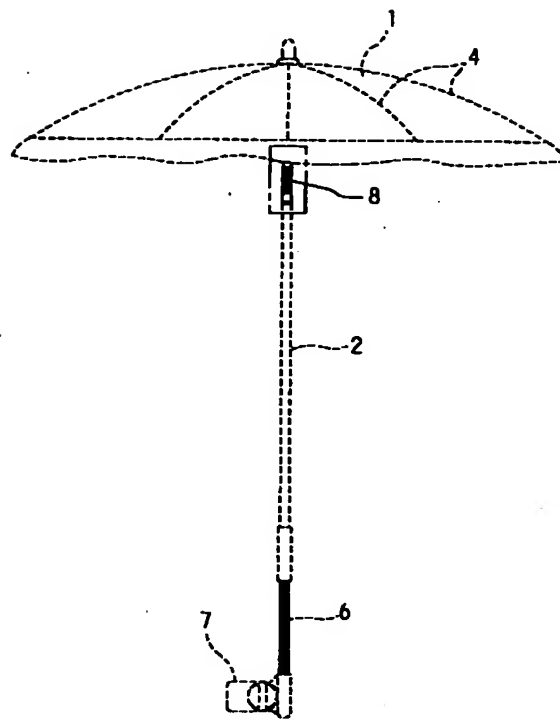
【図5】



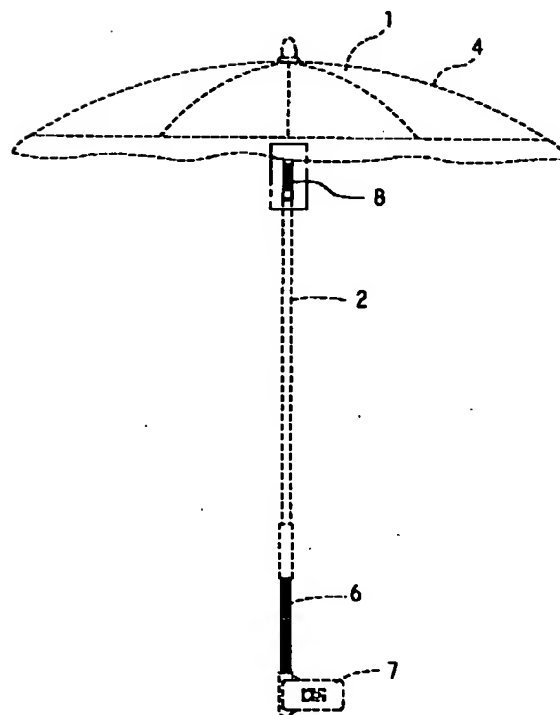
【図3】



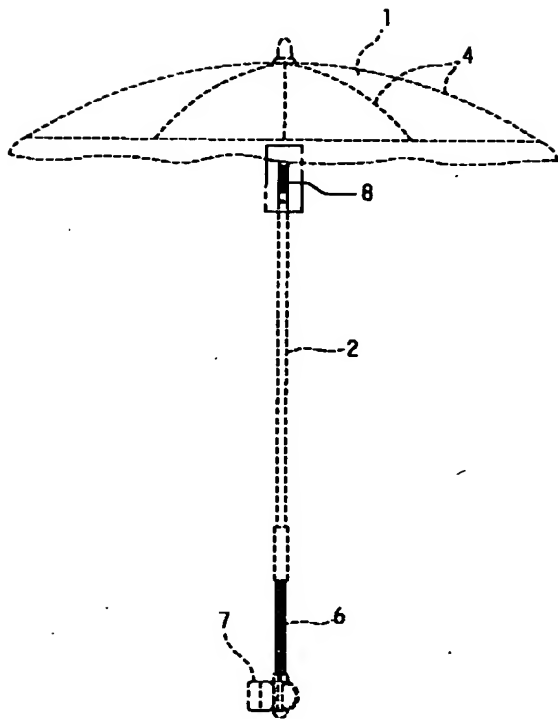
【図6】



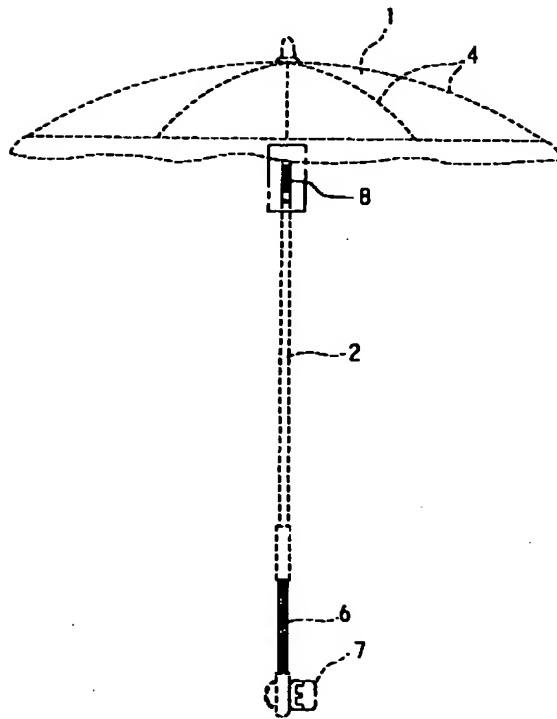
【図7】



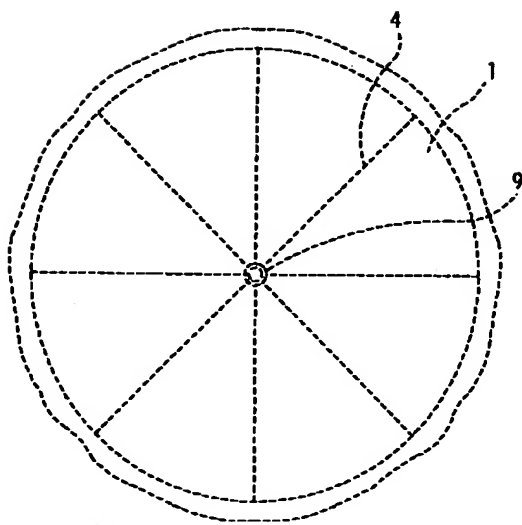
【図8】



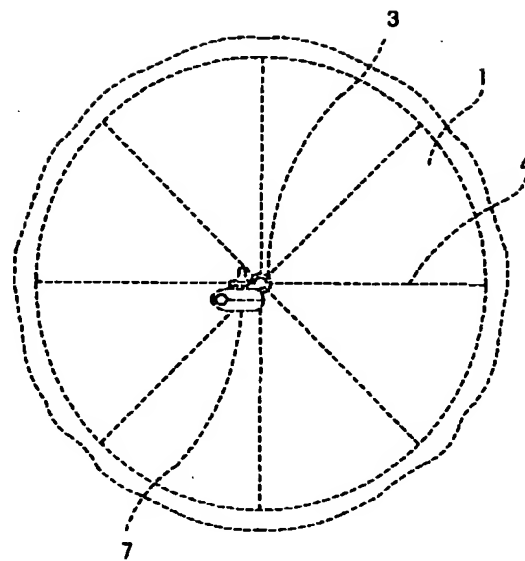
【図9】



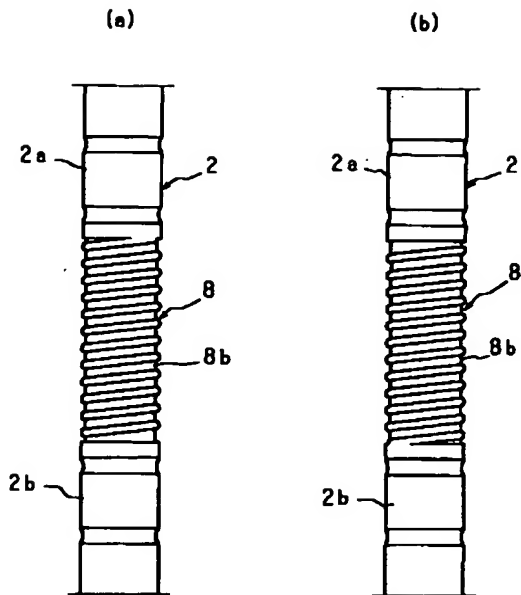
【図10】



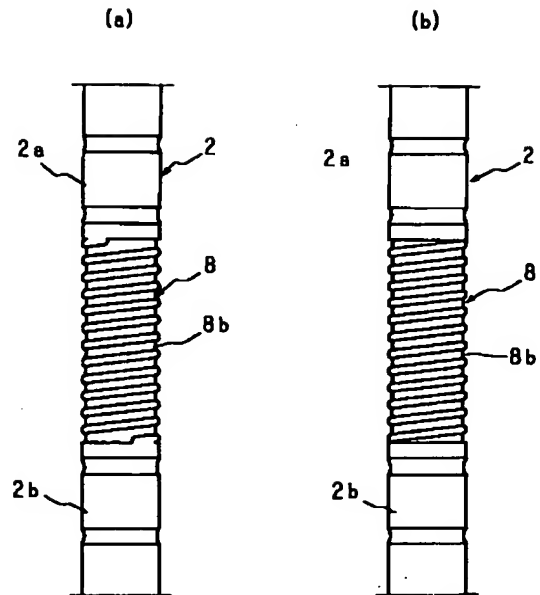
【図11】



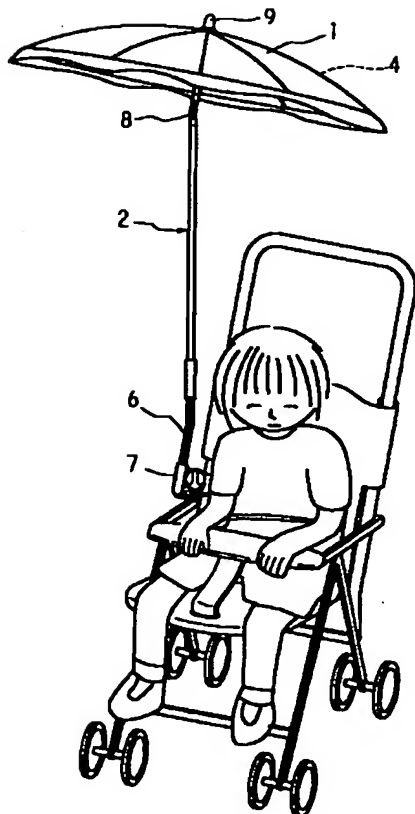
【図12】



【図13】



【図14】



(9)

特開2002-330808

フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁷

識別記号

F I

タームコード(参考)